

竹田 和代 (学生)

遠藤 真弘・橋本 明政・小柳 仁 (心研外科)

12. 流出血管が肺動脈であった肺葉内肺分画症の1例

曾根 康之・寺岡 邦彦・金田 良夫・豊田 智里・武石 詢 (第1病理)

座長 梶田 昭 (第2病理)

13. 剖検において初めて脳ムコール症と診断しえた重症透析患者の2例

田中 好子・西川 恵・川島洋一郎・松村 治・水上 玖美・

久保 和雄・佐中 孜・詫摩 武英・杉野 信博 (第4内科)

14. Paraprotein が腎に沈着した8症例の解析

西川 恵・佐中 孜・菊地 典子・松村 治・水上 玖美・湯村 和子・

詫摩 武英・杉野 信博 (第4内科)

赤星 雅・溝口 秀昭 (第1内科)

豊田 充康・梶田 昭 (第2病理)

豊田 充康・梶田 昭 (第2病理)

15. アミロイドーシスと骨髄内形質細胞系

閉会の辞 西川 俊郎

1. 子宮頸部の florid mesonephric hyperplasia の1例

(産婦人科) 滝沢 憲・塩田 真理・

稲生由紀子・井口登美子・武田 佳彦

(病院病理) 平山 章

症例は71歳 G-6, P-6で水様帯下, 性器出血を主訴とし, 子宮口開大所見から子宮内膜癌を疑い子宮鏡, 子宮内膜診査切除を施行したが萎縮性変化を認めるのみであった。初診後3カ月に水様帯下の沈査細胞中に腺癌様細胞を認めたので, 卵管癌を疑い開腹したが内生殖器に肉眼診では異常を認めなかった。HE染色では, 正常な頸管腺の他に, これとは少し異なる腺管が, 頸管内膜より漿膜近くまで増生する所見を認めた。PAS染色では, 赤桃色に良く染色される頸管腺に対し, 増生している腺管は細胞膜がわずかに染色されるのみであった。増生組織は, 良く分化した単純腺管と未分化な細胞で被覆され軽度に乳頭状を呈する腺管の2つが区分された。CEAの免疫組織染色では, 前者は染色されないが, 後者は良く染色された。但し, 両方とも, 細胞異型は少なく浸潤像も認めなかった。以上より本症例は胎生期 Wolffian 管の遺残細胞に由来する florid mesonephric hyperplasia と考えた。

2. 耳下腺腫瘍の病理

(耳鼻咽喉科) 井上 敬子・

山本 信和・高橋 正紘・石井 哲夫

昭和57年1月から昭和62年4月までの5年4カ月間に当院耳鼻咽喉科で入院治療した耳下腺腫瘍患者35名について, 1972年のWHO分類に従って分類し, 代表

的な症例についてまとめた。35名中, 良性腫瘍は26名(74%)で, pleomorphic adenomaが14例(53%), adenolymphomaが5例, その他 epidermoid cyst, eosinophilic granuloma, hemangioma等が認められた。悪性腫瘍は9名(26%)で, mucoepidermoid tumorが5例, adenoid cystic carcinomaが1例, adenocarcinomaが2例, undifferentiated carcinomaが1例みられた。良性腫瘍では40~50歳代にピークがみられ, 悪性腫瘍では50歳代以上の高齢者に多くみられたが, 20歳代の男性2例で mucoepidermoid tumorがみられた。pleomorphic adenoma, adenolymphoma, mucoepidermoid tumor, adenoidcystic carcinomaの症例について臨床経過と治療, 予後, 病理組織についてまとめた。

3. 核内封入体が認められた所謂肺硬化性血管腫の1例

(病院病理科) 相羽 元彦・平山 章

(第2外科) 鈴木 忠

所謂肺硬化性血管腫は, distinct clinicopathological entityであるが, その histogenesis は未だ定説に至っていない。核内封入体が認められた1症例について, 免疫組織化学的に検討した。症例は45歳の女性で, 15年前より follow されていた右下肺野の異常陰影に増大傾向が出てきたため右下葉切除された。4×3×4.5 cmの境界明瞭な結節で, 組織学的には, 充実性・乳頭状・出血性・硬化性の4 patternを認めた。封入体自身は α_1 -antitrypsin (AT)のみ陽性であったが, 封入体を有する細胞は裂隙状の腔や乳頭状の増生部の表面に

添って配列する細胞と共に, cytokeratin(CT), epithelial membrane antigen (EMA), CEA-related antigen (CRA) と AT が陽性だった。充実性に増殖する細胞には封入体は見られず, EMA, AT, Vimentin が陽性, CT と CRA が陰性だった。上述の細胞は全て Factor VIII, Desmin は陰性だった。これより, 充実性増殖細胞は肺胞上皮の性格を十分表現していない primitive respiratory bronchiole 由来の細胞と考えうる。

4. Oligodendroglioma の病理組織学および免疫組織化学的検討

(脳神経外科) 久保 長生・田鹿 安彦・
遠山 隆・田鹿 妙子・永室 博・
井上 憲夫・坂入 光彦・喜多村孝一

Oligodendroglioma の組織像は perinuclear halo をもつ細胞と Honey-combed structure で特徴づけられる。我々は従来の組織学的方法と免疫組織学的方法により oligodendroglioma を検討したので報告する。

方法：我々の経験した所謂 oligodendroglioma は 38例であった。これらの手術材料を10%ホルマリンに固定したパラフィン包埋標本を用いた。染色は HE, PTAH, Ag, などを行ない, さらに GFAP, NSE, S-100, MBP に対する抗体を用いた PAP 法と Vimentin, 抗 Leu 7抗体を用いた ABC 法による酵素抗体法をおこなった。

結果：定型的な oligodendroglioma は16例で GFAP, S-100ともに陽性細胞が少なく9例に周辺の astrocytes に陽性であった。MBP は1例に腫瘍細胞に接して陽性所見がみられた。Vimentin は血管周囲のみに陽性であった。一方, GFAP および S-100が腫瘍組織全体に陽性で perinuclear halo を有する部分でも多数の陽性細胞を認め, またさらに astrocytoma のところが強陽性である様なものは mixed oligo-astrocytoma 12例とした。Anaplastic oligodendroglioma の10例は GFAP, S-100共に陽性であり, Vimentin は7例に陽性で, 血管周囲のみならず細胞質および細胞間にも陽性である。NSE はすべて陰性であった。Leu 7に関しては1例の anaplastic oligo.で陽性細胞を認めた。今回の検索では oligodendroglioma に対する明らかな腫瘍マーカーはみとめられなかったが, 免疫組織化学的方法を加えると本腫瘍の分類が比較的容易になると考える。

5. 小児硬膜外悪性リンパ腫の1例

(第二病院脳神経外科)

梅原 裕・古屋隆一郎・
河西 徹・山本 昌昭・神保 実
(同小児科) 上原まゆみ・和田恵美子
(同中央検査科病理) 藤林真理子
(脳神経外科) 久保 長生

症例：1歳6カ月女児。

主訴：歩行障害。

既往歴・家族歴：特記すべきこと無し。

現病歴：昭和62年2月15日頭部外傷を負い, 同時期より歩行障害が出現, 約10日の経過で両下肢対麻痺, 膀胱直腸障害, 感覚障害等の症状が完成した。MRI にて Th₄₋₁₁ に dorsal epidural tumor が発見されたが, 腹腔内の放射線学的検索では他部位に腫瘍の存在を確定し得る所見は得られなかった。3月6日手術目的で当科に入院した。

手術所見：3月10日 Th₄₋₁₁ の椎弓切除を行ない, 暗赤色の腫瘍を肉眼的に全摘出した。

病理所見：光顕・電顕にて diffuse B cell type lymphoma の所見が得られた。

術後経過：全身検索, 内科的治療目的で小児科へ転科するも, 腹部 CT 等にて右下腹部の後腹膜腫瘍が発見された。

考察：小児硬膜外腫瘍としての malignant lymphoma は稀である。急速な神経症状を呈して発見された幼児の脊髄悪性リンパ腫を経験したのでこれを報告した。

6. 病理組織学的検討及び臨床経過よりみた十二指腸潰瘍穿孔例の病型分類と発生原因について

(第2外科) 鈴木 忠
(病院病理科) 平山 章

十二指腸潰瘍穿孔例429例を経験した。これらの症例を, 手術時肉眼所見により3型に分け (Type A: 慢性潰瘍穿孔型, Type B: 亜急性穿孔型, Type C: 急性穿孔型), 各病型の組織学的特徴をみた。そして, これらにつき, 病状経過, ストレッサーの存在, 血中ガストリン値等の臨床像と比較した。

一方, 最近のいくつかの臨床的および実験的報告についても検討した。

以上の結果, 本症の原因については従来考えられて来たような迷走神経性のものだけでなく, 交感神経失調のものもあり, 特に我々の Type C については後者の立場で考えた方が良いと思われた。

なお, 本症治療についての国内外の実際についての一端を述べ, その考え方については未だ一定のコンセ